

若手教諭の市内研究会や県道徳教育研究会での実践発表の例

若手教諭は、道徳授業改善について一年間の個人研究テーマを立案し、研究実践を実施している

学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳科の授業と評価の在り方

～「多面的・多角的に考え、議論する道徳」に向けた授業の指導方法の改善と評価～

伊豆市立中伊豆中学校

1 はじめに

「特別の教科 道徳」の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示されている。つまり一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」授業への転換を図ることが求められている。

2 テーマ設定の理由

平成31年度の道徳科全面実施に向け、本校では道徳の授業が学校教育全体を通じて行う道徳教育の要になるよう、道徳教育の環境を整備し、授業改善を学校体制として推進していくことが校長より指示された。そこで、新学習指導要領の核となる「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に着目して、道徳科の授業づくりと評価の研究に取り組むことにした。

3 研究実践

(1) 道徳の授業改善のための指導の工夫

ア「主体的な学び」の視点。生徒が課題意識を持つことができる発問の工夫、自己を見つめ道徳的価値を自分自身との関わりで捉えることができる発問の工夫、自己の生き方について考える学習。イ「対話的な学び」の視点。生徒同士が協働できる学びの場づくり、自分と異なる意見と向かい合い議論する場づくり。ウ「深い学び」の視点。読み物教材の登場人物への自我関与、物事を多面的・多角的に考え道徳的価値の理解を深めることにつながる発問、道徳的行為に関する体験的な学習を授業に取り入れ、構想をつくり、研究内容に取り組んだ。

(2) 提案授業としての研究

- ① 道徳教育推進教師を中心とした道徳全体計画、別葉、指導計画の設備
- ② 先進研究会、先進校授業研究会への参加と伝達
- ③ 輪番制道徳（担当内容項目）の導入（他学級で相互指導）
- ④ 交流研究授業（同一教材による授業構想と展開の比較、生徒の反応のみとり）
- ⑤ 外部講師招聘、講話（評価）
- ⑥ 学級経営の充実

(3) 授業実践

① 授業案の検討

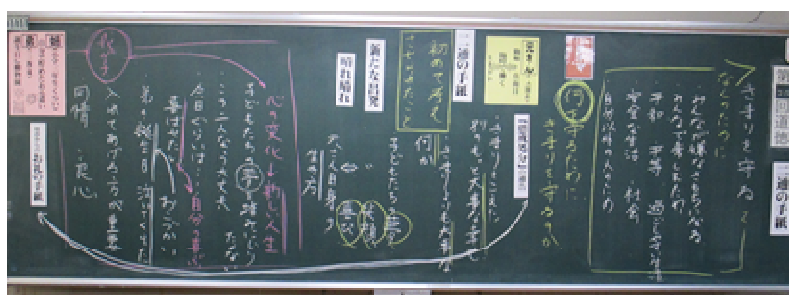
「主体的・対話的な視点を授業案にどう生かすか」について道徳部で検討

ア 問いの吟味 イ 板書の工夫

② 評価の研究

ア 子どもの成長をどのように捉えるか

イ 評価ファイル(ワークシートの



蓄積) (複数によるみとり)

- ③ 3年生 主題名 社会の秩序と規則 教材 「元さんと二通の手紙」 内容項目 遵法精神
ねらい 法や決まりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現するために、社会の一員として自らに課せられた義務を確実に遂行しようとする態度を育てる。

第一次案では、「元さんの思いやりには問題があったらどうか。」という主発問で授業したが、2択の問いとなり、生徒の発言に深まりが見られなかったため、検討し、「元さんがこの年になって初めて考えさせられたことは何だろう。」に変更した。外部講師(愛知県鈴木教諭)の授業では、「何を守るために、決まりを守るのか。」を明確にして、ねらいとする価値へ生徒自身が自分事として考える姿が印象的であった。本校でも、テーマを設定した授業展開で「考え、議論する道徳」を楽しむ姿が見られた。

- | |
|--|
| <p>A 「考えてみたい」という「心の動き」を創る【主体的な学びの具体】</p> <p>→子ども自身の中に問いを生み出す</p> <p>→学習の目当て(テーマ)を示し、追求の見通しを持つ</p> <p>B 多様な考え方と出会える「思考の動き」を創る【対話的な学びの具体】</p> <p>→生徒の発言の中からキーワードを見つけ思考を深める</p> <p>→思いを伝え合う時間を確保、関わり合う場の設定</p> <p>C 振り返りから「未来への動き」を創る【深い学びの具体】</p> <p>→新たな気付き、改めての納得、疑問・課題を発見する</p> <p>→友人のどんな意見のお陰かを伝え合い、成長を実感する</p> |
|--|

生徒の振り返りから。

<p>Aさんの意見で「おれのきまり」というのにとっても共感しました。元さんの中のきまりは、人のために働き、人を笑顔にすることかなと思いました。きまりは守らなければならない。けれど人を笑顔にするには、きまりを破らないといけない。難しいなと思いました。(自分の生き方を見つけていく姿勢が発言に見られ、道徳の楽しさに結びつきました)評価文</p>
--



<p>私は特に幸せについて深く考えることができました。きまりを守ることが幸せなのか、きまりを守り夢を与えることが幸せなのか、正直うまく言えなくてすっきりしませんでした。私がこのような立場になったとき、どんな対応をするかは分かりませんが、今回行っていただいた授業のように、決して後悔のない判断をしたいです。私はBさんの、子どもにとっても元さんにとっても幸せになるような判断をしたいという意見にとっても共感しました。今もどういうふうにまとめたらよいか分かりませんが、そうやって自分の生き方を見つけていければなと思います。(難しい問題に挑みながら、友達同士発言を学び合い、共に悩み、考え、力を合わせて自分なりの答えを見つけようという姿勢に成長を感じました。)評価文</p>

4 成果と今後の課題

輪番授業や交流授業を重ねて生徒の反応を相互にみとることで、教員自身が内容項目についての理解を深め、この教材で大切にすべきところや、ねらいとする道徳的価値への迫り方などを工夫することができた。なにより職員室で道徳の授業の教材解釈や授業展開についての会話が非常に増え、互いに授業や生徒の考えを楽しむようになった。また、生徒授業評価「道徳の授業について、自分から進んで発表したり、友達の意見を聞いて考えたりするなど、意欲的に取り組んでいる。」全校平均3.49(4段階評価)と高い値を示していた。本学級では、1学期と比べ、3.32から3.90と評価が上がり、道徳の授業を楽しみにしていることがうかがえた。「難しかったけど、楽しかった。」という感想がとてもうれしい。これからも、主体的・対話的で深い学びに向けて、授業研究を中心に、一貫性のある学校体制での道徳教育の推進していく必要がある。また、今後は更に生徒が自分の成長を実感し、次も頑張ろうと前向きに道徳の授業を創造するような、評価の研修に着手していきたい。